

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項 □ ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No. 0203	自己点検・評価のピアレビューに基づく本研究科の活動改善と改善のための体制づくりと PDCA サイクルの運用。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
本研究科内に特別の組織は作っていないが、研究科主任会も兼ねる学部主任会において研究科の各専攻の活動状況報告を行い、継続的な改善につなげている[2-1]	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0201	内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。	自己評価	A
評価の視点	(3)大学全体規模や学部、研究科その他の組織（教職課程を実施する全学的組織を含む）における自己点検・評価をそれぞれ定期的に実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。 (4)学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。 (5)行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。			
現状説明				
研究科全体の自己点検はこれまでも本点検を大学規模の点検として実施している。点検の一部として、大学院講義について院生の視点からの意見を取り入れるために、専攻主任会議をメールで行い授業アンケート[2-2]のフォーマットを作成し、これを実施している。このアンケートは授業担当者にフィードバックして教育の充実を図っている。 また、看護学専攻とリハビリテーション学専攻は、職業実践力育成プログラムの認定を受けているため、その運営委員会として外部委員も参加する職業実践力育成プログラム運営委員会を毎年開催し、外部の意見を取り入れている[2-3]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0201	研究科独自の授業アンケートの実施
項目 No. 0201	看護学専攻・リハビリテーション学専攻における職業実践力育成プログラム運営委員会での外部委員からの意見聴取

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0201	研究科としてより積極的な点検・評価の基づく改善推進
今後の改善・向上方策	
研究科独自の学生による授業評価を実施し、授業改善に臨む方向であるが、必ずしも全専攻で有効に行われているわけではなく、主任会等で再度専攻に呼びかけて教育の充実と向上に役立たせたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
【A】・・・緊急の改善を要する事項	
【B】・・・検討を要する事項	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 4	教育・学習 (4a)
------	------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0402	各専攻会議の開催について研究科として把握できておらず、また、専攻間の連携も弱い状態が依然として継続している。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
研究科専攻主任会を学部主任会と同時に開催し、専攻相互の状況を把握できるようした[2-1]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0401	達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程および教育・学習の方法を明確にしているか。 (2)上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。			
現状説明				
研究科ではDP（ディプロマ・ポリシー）とCP（カリキュラム・ポリシー）を制定し[4a-1]、さらにこれに基づきルーブリック評価による修士論文評価方法を策定している[4a-2]。これに従って学位授与の是非を評価・決定している。				

自己点検・評価項目	0402	学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。	自己評価	A
評価の視点	学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 ※ 具体的な例 ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。 ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。 ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当および学びの過程の可視化。 ・学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間および単位の設定。			

現状説明
<p>DP のもとに必要な教育カリキュラムの基本についてカリキュラム・ポリシー（CP）を公開し、教育内容は共通科目と専門科目を学修の順次性に配慮して体系化している[4a-1]。</p> <p>各授業科目の大学院カリキュラムにおける位置付けと到達目標をシラバスに明記し、シラバスの第三者チェックを毎年行っている。</p> <p>2021 年度に「リハビリテーション生体機能学特別講義」と「リハビリテーション療法学特別講義」を必修科目とする教育課程変更を行い、リハビリテーションに関する専門性の高い内容を本専攻所属の全教員の研究内容を通して学修することができるよう編成した。[4a-3]</p> <p>博士後期課程では所属教員の専門性を生かした形で他分野に渡る演習を用意して、医療全般をカバーした演習科目を設定している[4a-4]。講義はオムニバス形式を主体に専門分野を網羅した学問体系に従って、前期課程、後期課程とも実施している。</p>

自己点検・評価項目	0403	課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果および教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。</p> <p>(2)ICT を利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。</p> <p>(3)授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。</p> <p>※ 具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。 ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。 ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか）。 ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。 			
現状説明	<p>社会人院生を受け入れる機会が多いため多くの科目は夜間開講で実施している。また Zoom などの ICT を用いた遠隔講義と対面講義を適宜使い分けて講義を実施している。</p>			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0401	ルーブリック評価による修士論文評価方法
項目 No. 0403	社会人院生に対する夜間開講や休日を利用した教育を実施している
項目 No. 0403	社会人院生による職場を研究フィールドとした調査・研究に対するリスクリテラシー

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0401	学位授与方針
今後の改善・向上方策	
現行の評価法の定期的な点検を行い、修正を加えていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0402	各学位課程にふさわしい授業科目を開設
今後の改善・向上方策	
現行の評価法の定期的な点検を行い、社会情勢の変化に即しての修正を加えていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	適切な授業形態、方法
今後の改善・向上方策	
社会人院生の教育・研究活動に適した夜間、休日の研究支援に適した環境整備を研究科全体で取り組む。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>0401 DP, CP を制定し[4a-1]、ルーブリック評価による修士論文評価の策定と適切な審議に基づいた学位授与体制が整備されている[4a-2]。</p> <p>0402 CP を公開し[4a-1]、体系的な教育課程の編成が適切になされている。共通科目・専門科目を学修の順次性に配慮して体系化がなされている。シラバスの第三者点検が整備されている。博士後期課程では専門性の高い内容を本専攻所属の全教員の研究内容を通して学修することが出来るよう教育課程が体系的に編成されている[4a-3]。</p> <p>0403 社会人院生のための「夜間開講」や休日利用の科目を提供するなど学生の多様性を踏まえた適切な授業形態・方法がとられており効果的な指導が認められる。大学院科目に ICT を用いた「遠隔授業」も取り入れるなどして社会人院生が効果的な学習を進められる環境整備を整えている点をヒアリングで確認できた[2024 年度ヒアリング記録 研究科 質問 No. 1]。</p> <p>以上のことから、DP, CP に沿って教育課程が体系的に編成され、修士論文評価にもルーブリック評価表が導入されたことで論文評価の客観性が高まったことは評価できる。社会人院生を擁する本研究科では学生の多様性を踏まえて ICT を活用した授業・夜間開講・休日利用の科目を提供するなど、きめ細やかな研究指導体制が維持されている。</p>	
長所・特色	
0403 研究科では院生の多様性（社会人院生）を鑑み、効果的な授業形態・方法（例えばコロナ禍では ICT を活用した遠隔授業や、夜間開講・休日利用の科目）に十分な教育的配慮がなされている [2024 年度ヒアリング記録 研究科 質問 No. 1]。	
留意点	
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>	
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 4	教育・学習 (4b)
------	------------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	2 月の修了判定の研究委員会前までに、修士論文の審査付議および審査委員組織のための研究科委員会を開催することが求められる
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
指摘を受けたのちに、本学学位規程に沿った手続きをとり、1 月に論文審査付議・審査委員組織を研究科委員会で審議・承認するようにした[4b-1]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	合格基準は審査を行う主査、副査に委ねており研究科として明確な基準は決められていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
修士以上の学位授与にあたっては、学士と同様にルーブリック評価を各専攻で定め、これに基づいてより客観的に審査を行うようにした[4a-2]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0404	成績評価、単位認定および学位授与を適切に行っていること。	自己 評価	A
評価の視点	(1)成績評価および単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。 (2)成績評価および単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。 (3)既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。 (4)学位授与における実施手続および体制が明確であるか。 (5)学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。			
現状説明				
本研究科における成績評価は、授業評価に加えて、研究論文評価および研究発表会での研究成果の発表に基づいて行われている。研究論文および研究発表会の評価においては、主査と副査を決定し、厳格な評価を行っている。さらに、審査結果は審査報告書としてまとめられ、研究科委員会での承認を経る形での審査体制が確立されている。				

自己点検・評価項目	0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。 (2)学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。 (3)指標や方法を適切に用いて学習成果を把握・評価し、大学として設定する目的に応じた活用を図っているか。 《学習成果の測定方法例》 ・アセスメント・テスト（GPS-Academic） ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取			
現状説明				
研究科ではDP（ディプロマ・ポリシー）とCP（カリキュラム・ポリシー）を制定し、さらにこれに基づきルーブリック評価による修士論文評価方法を策定している。これに従って学位授与の是非を評価・決定している。さらに講義については研究科独自の授業アンケートを策定し、定期的実施している。				

自己点検・評価項目	0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教育課程およびその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。 (2)課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。 (3)外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。 (4)自己点検・評価の結果を活用し、教育課程およびその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。			
現状説明				
教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価する体制は整っていない。 ただし、看護学専攻とりハビリテーション学専攻では職業実践力育成プログラムが文科省の認可を受けており、同プログラム運営委員会において外部委員からの意見を取り入れている[2-3]。外部委員から指摘のあった「対面による院生間の交流の減少」について、情報交換をする機会を設ける工夫をしている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0405	研究科独自の授業アンケートの実施
項目 No. 0405	ループリック評価による修士論文評価方法

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握および評価しているかの検討
今後の改善・向上方策	
ループリック評価による評価を導入しつつある。これまでの状況を自己点検して、学位授与方針・基準として妥当か定期的にチェックし改善を加える。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けての取組み
今後の改善・向上方策	
専攻によって教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価する体制は整っていないところもあるので今後検討し整備を行う。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
<p>0404 修士論文審査体制の構築が適正になされ、研究論文および研究発表会の評価においては主査・副査による「厳格な評価」や学位授与が適正になされていることを確認した[4b-1]。</p> <p>0405 DP（ディプロマ・ポリシー）とCP（カリキュラム・ポリシー）を制定し、これに即したルーブリック評価による修士論文評価方法が策定され、学位授与の是非を適切に評価している[4a-2]。</p> <p>0406 「教育課程およびその内容、教育方法について定期的に点検・評価する体制は整っていない」との記述があったが、ヒアリングの結果、教育方法については、研究科として統一が難しいが、評価の基準や修了要件などは、研究科委員会に諮って統一していることを確認した。また「連携が取れていない」ことの理由としては、専攻の特性が大きく異なり、教育手法の統一はなかなか困難であること、しかし研究科主任会等で専攻間の情報交換は行われていることを確認した[2024 年度回答票 質問 No. 2, 3]。看護学専攻とリハビリテーション学専攻では外部委員からの意見を取り入れている[2-3]。また「対面による院生間の交流の減少」についてはヒアリングの結果、これは職業実践力育成プログラム（BP）運営委員会の外部委員からの感想（指摘）を指しており、社会人学生のための遠隔授業はコロナも収束してきたので対面で行ったほうが相互間の情報交換も行えるだろうと言う意味であることが確認された[2024 年度回答票 研究科、質問 No. 1、2024 年度ヒアリング記録 質問 No. 1]。</p> <p>以上のことから、学位授与に関わる審査体制は十分に構築されており、教育課程においても専攻それぞれの特性の違いがあるとは言え、研究科主任会で専攻間の情報統一を図るなどして教育方法の向上に向けた取り組みが定期的になされていることを確認した。</p>	
長所・特色	
0405 修士以上の学位にあってもルーブリック評価を各専攻で定め、より客観的に審査を行っている点は評価できる[4a-2]。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	[A]・・・緊急の改善を要する事項 [B]・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
	なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 5 学生の受け入れ

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
特記事項なし	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。 (2)学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。 (5)すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。			
現状説明	AP の設定を行い、この方針に基づく学生の受入を進めている[5-1]。学部生に対して機会を見つけて大学院進学の説明を行い、情報提供を毎年行っている。また生命医科学専攻後期課程進学における個別資格審査についての申し合わせ事項を関連の専攻主任で協議して策定した[5-2]。			

自己点検・評価項目	0502	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。	自己評価	A
評価の視点	学士課程全体および各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学者数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。			
現状説明	研究科全体の学生数は、定員の約5-6割となっている。本研究科の場合、学生数確保のためには、社会人（卒業生等）の進学も重要な要素であり、その受入のための新しい仕組みとして職業実践力育成プログラムを導入するなどの学生確保に向けた努力はしている[2-3]。また、2023年度からは、このプログラムに基づき教育訓練給付制度が認可された。これによって大学院学生の経済的負担を軽減できる仕組みを導入できた。この制度は、社会人院生の増加を図ることが出来て定員未充足の改善に繋がった。			

自己点検・評価項目	0503	学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価はしていない。研究科委員会、主任会、専攻内の委員会で意見を出して、適宜点検を行っている。看護学専攻やリハビリテーション学専攻では、職業実践教育プログラムや教育訓練給付金の制度が導入されており、医療機関等で働く専門職に周知させるため、種々の機会をとらえてリーフレットの配布や職能団体の機関誌における広告掲載を行っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0502	職業実践力育成プログラムおよび教育訓練給付制度の導入

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	学生の受け入れに関わる状況の定期的な点検・評価
今後の改善・向上方策	
研究科内に委員会を設置して学生の受け入れに関わる状況の定期的な点検・評価を行う。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0502	職業実践力育成プログラムのブラッシュアップと教育訓練給付金の制度の継続
今後の改善・向上方策	
職業実践力育成プログラムを関連施設に広く伝えさらなる学生募集に寄与する方策に取り組む。また、教育訓練給付金の認定は3年に一度行われるため、その再審査をクリアするための対策が必要である。具合的には、6割以上入学人数の確保が課題となるため、専攻会議で募集活動を促進するようコンセンサスを図っている。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0501	AP の設定を行い、この方針に基づく学生の受入を進めている[5-1]。学部生に対して機会を見つけて大学院進学の説明を行い、情報提供を毎年行っている。
0502	研究科全体の学生数は、定員の約5から6割となっている。同研究科の場合、学生数確保のためには、社会人（卒業生等）の進学も重要な要素であり、その受け入れのための新しい仕組みとして職業実践力育成プログラム

を導入するなどの学生確保に向けた取り組みが見られる [2-3]。また、2023 年度からは、このプログラムに基づき教育訓練給付制度が認可されたことを受け、大学院学生の経済的負担を軽減できる仕組みを導入しており、そのことで社会人院生の増加を図ることが出来て定員未充足の改善に繋がったとあるが、根拠が明確とはいえない。

長所・特色

0502 職業実践力育成プログラムを導入するなど、学生確保に向けた努力が評価できる。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

特になし

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P5-3	RH11_大学院 2024 春学期 Ver	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	各教員間の教育研究の活動に差が見られる点に関して、具体的な解決策が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
生命健康科学研究所とともに教員の教育研究活動の活性化を図るべく活動している。研究補助金や専攻(学科)による研修会などへの支援を行い、研究の推進につなげるべく尽力している[6-1]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0601	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。 ※具体的な例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が担う責任の明確性。 ・法令で必要とされる数の充足。 ・科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。 ・各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。 ・複数学部等の基幹教員を兼ねる者について、業務状況や教育効果の面での適切性。 <p>(2)クロスアポイントメントなどによって、他大学または企業等の人材を教員として任用する場合は、教員の業務範囲を明確に定め、また、業務状況を適切に把握しているか。</p> <p>(3)教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現しているか。</p> <p>(4)授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。</p>			
現状説明	<p>現在、全専攻において研究指導可能な教員組織は整っている[6-2]。教員組織編制については、授業科目専任教員は確保されており、年齢的には若齢の教員が少ない傾向にあるが、私立大学としては妥当なものであり、性比でみると女性教員(研究指導教員)が全教員の約4分の1を占める。</p>			

自己点検・評価項目	0602	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準および手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。 (2)年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。			
現状説明				
教員の採用においては、学部・学科で人事検討に関する組織において候補者の選考を行っている。その際、性別をはじめとする多様性に配慮している。人事検討組織での選考結果を踏まえ、研究科において候補者の資格審査を公正に行い、その結果を基に最終的な採用決定を行っている。このように、本研究科では複数の段階で公正性を確保し、多様性にも配慮することで、適切な人事を実現している。教員の昇格については、教育・研究業績、学内運営への関与、人物評価に基づいた昇格の取り決めが策定されており、この取り決めに基づいて昇格が実施されている。				

自己点検・評価項目	0603	教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発および改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (2)教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。 (4)教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。			
現状説明				
全教員が学部と兼務しているため、学部開催のFD研修会に多くの教員が参加している[6-3]。また、年度ごとのFD活動推進計画を立てている[6-3]。加えて、生命健康科学研究所との主催で外部研究者を招聘した講演会を開き、教員、院生のモチベーションを向上する機会を増やしている[6-1]。専攻によっては、所属教員の輪番制で教員の研究内容やトピックスを紹介する専攻情報交換会を年に4回開催し、情報交換の場を設けている[6-4]。				

自己点検・評価項目	0604	教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
年1回、全学で個々の教員の自己点検・評価を行っている[6-5]。教育研究活動の実施状況をみると、教員間で活動の差異があり、教育研究活動の活性化が必要である。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0603	生命健康科学研究所と連携した活動や専攻独自の情報交換会活動

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0603	生命健康科学研究所と連携した活動の推進
今後の改善・向上方策	
生命健康科学研究所とのさらなる連携を進め、研究科教員の教育研究活動を充実する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
＊各項に留意点レベルを記入 <div> <div>【A】・・・緊急の改善を要する事項</div> <div>【B】・・・検討を要する事項</div> </div>

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 7	学生支援
------	------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	ハラスメントへの対応
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部 FD 研修会でのハラスメント研修を実施し、教員にハラスメントの意識付けを図った。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0701	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。	自己評価	A
評価の視点	<p>(4) [修学支援（学習面）] 学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。</p> <p>(5) [修学支援（学習面）] 障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っているか。</p> <p>(6) [修学支援（学習面）] 学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応しているか。</p> <p>(8) [修学支援（学習面）] I C Tを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っているか。</p> <p>(10) [生活支援] 学生の心身の健康、保健衛生等に関わる指導相談を、学生の実態に応じて行っているか。</p> <p>(11) [生活支援] 学生の孤立化を防止するため、人間関係構築につながる措置（学生の交流機会の確保等）を必要に応じて行っているか。とりわけ I C Tを利用した遠隔授業を行う場合において配慮しているか。</p> <p>(12) [進路支援] 各学位課程（学士課程、修士課程や博士課程など）や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。</p> <p>(13) [その他支援] ボランティア活動・部活動等の正課外における学生の活動への支援など、必要に応じた支援を行っているか。</p>			

	(14) [学生の基本的人権の保障] ハラスメント防止、プライバシー権の保障や苦情申立への対応など、学生の基本的人権の保障を図る取り組みを行っているか。
現状説明	
<p>生命健康科学研究科では大学院生に対して、専攻主任および主指導教員に加えて副指導教員を2名配置し、院生の修学および生活に対して支援の体制をとっている[7-1]。</p> <p>学生が個々に抱える問題については、主・副指導教員および専攻主任がまずはプライバシーを考慮しつつ対応し、必要に応じて専攻内で情報共有をはかりつつ対策を検討している[2-1]。</p> <p>生命医科学専攻や保健医療学専攻では生命医科学科内の就職委員会が同時に院生のキャリア支援も担当し学部生向けのキャリア支援講座、企業説明会等の情報を院生とも共有する。さらに専攻主任と主指導教員を介して個々の院生の支援を行っている。看護学専攻、リハビリ専攻では大部分の院生は社会人でありキャリア支援を要することが少ない。</p> <p>生命健康科学研究科の教員は学科の教員を兼ねるため、学科を対象としたキャリア支援、保健管理、スポーツおよび文化活動の役割教員が中心となっており、生命健康科学研究科の専攻ごとに学部学生と同時に学生支援を実施している。</p>	

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
本研究科では、学生支援に関する状況を定期的に点検・評価する特化した仕組みは整備されていない。しかし、月1回開催される主任会や研究科委員会において、学生支援に関する情報共有を十分に行っている[2-1, 4b-1]。また、点検・評価が必要な場合には、速やかにメールによる審議を実施し、検討を重ねることで、学生支援の改善・向上に継続的に取り組んでいる。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0701	指導体制が主指導教員と副指導教員の複数体制をとっており懇切丁寧な指導ができる。
項目 No. 0701	学生に対するハラスメントはこの3年間でおこっていない。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価するシステムの確立
今後の改善・向上方策	
<p>学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価する委員会を設置し、専攻主任および主指導教員以外の視点で学生支援を点検することでより充実を図る。</p>	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0701 大学の方針に基づき、学生支援（学修支援、生活支援、進路支援等）の体制を細かく整備しており、この点は「根拠資料No. P7-1 学部・学科役割分担表」において確認することができ、評価できる。	
0701 指導体制が主指導教員と副指導教員の複数体制をとっており懇切丁寧な指導ができている[7-1]。	
0701 学生に対するハラスメントはこの3年間で起きていない。[7-1][P7-5][2024年度ヒアリング記録]	
0702 学生支援に関する状況を定期的に点検・評価する特化した仕組みは整備されていない。しかし、月1回開催される主任会や研究科委員会において、学生支援に関する情報共有を十分に行っている[2-1, 4b-1]。また、点検・評価が必要な場合には、速やかにメールによる審議を実施し、検討を重ねることで、学生支援の改善・向上に継続的に取り組んでいる。	
長所・特色	
0701 学部 FD 研修会でのハラスメント研修を実施し、教員にハラスメントの意識付けを行っており、学生に対するハラスメントはこの3年間で起きていないことは評価できる。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
P7-1	学部・学科役割分担表	○
P7-5	臨地実習推進部運営委員会議事録	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021~2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 8 教育研究等環境

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0802	教育・研究機器の新規導入や更新が必要。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
予算が関わることであり、研究科備品の新規購入や更新が難しい状況にある。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・ 評価項目	0803	研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。 また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。	自己 評価	A
評価の視点	(2)研究倫理や研究活動の不正防止に関する規程を定め、かつ、学生も含めて研究倫理の遵守を図る 取り組みを行っているか。			
現状説明				
「中部大学における人を対象とする研究に関する倫理指針」「中部大学倫理審査委員会規程」「中部大学倫理審査委 員会迅速審査委員会細則」等を定め、研究倫理審査委員会を設置し、研究倫理の遵守をはかるシステムを整え円滑 に実施している。また、 大学から配布される研究ガイドブックや e-APRIN などを活用し研究倫理の遵守に向けて 学習を促進している[8-1、8-2、8-3、8-4、8-5]。 また、各専攻の授業科目のなかでも倫理に触れる科目があり、学生にはそのなかで研究倫理教育を実施すること もある。				

自己点検・評価項目	0804	教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)教育研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、教育研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			
現状説明				
各医療専門職者養成の指定規則改正に伴う見直しが完了し、2022 年度から新カリキュラムが開始されている。本学部の設備・備品が改正された規則や新設科目等に対応しているか検証し、不足を各学科予算で補いつつ運用している。				

る状況にある。また、教育研究備品の経年劣化が進んでおり、学部等重点事業計画立案時に毎年教育研究等環境の定期的点検を行い、必要な備品を提案しているが、大学予算との兼ね合いで難しい現状にある。
大型の予算を必要とする備品類については、大学当局から求められる重点計画表・中期計画などで新規購入機器、更新機器の優先性を調整して提示するなど効果的な教育の実施に向けて取り組んでいる [8-6、8-7]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0803	研究倫理教育の徹底

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0804	教育研究環境に関する状況改善の取り組み
今後の改善・向上方策	
学部・研究科開設より 20 年近い期間が経過しており、教育研究等環境の経年劣化が著しい。外部資金の導入を今後も挑戦していく一方で、学内計画での機器更新に向けても機会を作り理解を深める試みにより改善を図る必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	[A]・・・緊急の改善を要する事項 [B]・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度（対象年度 2021～2023 年度） 自己点検・評価シート

自己評価組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項 <input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）	
項目 No.	
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
特記事項なし	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0901	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。	自己評価	A
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。 (2)社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。			
現状説明				
社会連携・社会貢献について、研究科として目標設定など意図した活動は行っていない。しかし、医療系かつ有資格者の大学生が多数を占める研究科のため、院生が取り組む研究において、企業との共同開発を図ったり、保健・医療・福祉の現場の実態把握や介入が行われたりするなど、社会連携・社会貢献につながる教育研究活動が行われている [6-5]。また、生命健康科学研究所と協働し、医療系有資格者や地域住民に向けた研修会を開催しており [6-1]、保健・医療・福祉施設や団体からの研修会講師依頼、研究指導依頼等に各教員が自主的に応じている [9-1]。 0902(3) 国際交流事業は各教員レベルに留まり、いまだ不足している部分が多い。				

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。	自己評価	B
評価の視点	(1)社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組みおよび課題を適切に把握しているか。 (2)点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。			

現状説明
研究科として社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価する取り組みは行っていない。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》
項目 No. 0901 COC や CAAC などの事業に参加する教員が多く所属する

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》
項目 No. 0901 学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組み
今後の改善・向上方策
従来より行ってきた取り組みに更に注力して、社会還元に取り組む。

課題事項 《箇条書き》
項目 No. 0902 研究科として社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価する取り組み
今後の改善・向上方策
研究科として社会連携や社会貢献活動の状況をとらえ、総体的に点検・評価するシステムを検討する。

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
*各項目に留意点レベルを記入
【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2024 年度 (対象年度 2021～2023 年度) 自己点検・評価シート

自己評価組織 生命健康科学研究科

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

前回の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	専攻内ごとの委員会が定期的に行われていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
専攻会議については各専攻において定期的な開催がされている。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1121	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っているか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続は、適切に行っているか。			
現状説明				
生命健康科学研究科の教員は学部との兼任であるため、生命健康科学研究科独自の委員会はほとんどない。研究科における各種検討事項は学部の各種委員会において委員長の主導のもと定期的に招集・開催・検討しており、組織の運営は適切に執行されている。委員会の議事録は必ず作成され、可及的に研究科長/学部長が確認している[11-1]。生命健康科学研究科委員会は学部教授会と同時に月1回開催され、議事録が作成され、研究科長が決済を行っている[4b-1]。生命医科学専攻では所属教員が生命健康科学部の全学科に分散しているため、生命健康科学研究科委員会を生命医科学専攻独自の委員会に替えており、適宜メール審議で業務を実施している。一方、他の専攻においては独自に定期的に開催する専攻会議を持ち、大学院生の学習環境整備、入試業務の確認・入学希望者の確認、研究進捗状況把握と発表会の計画・運営、予算管理、修士論文提出に至る手続きのマニュアル化などを行い、毎年業務の見直しを行うとともに、議事録も適切に作成されている[11-2]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色	《箇条書き》
項目 No. 1121	定期的な研究科委員会および専攻会議の開催

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項	《箇条書き》
項目 No. 1121	管理運営組織および教育研究組織における、持続的な業務内容の点検
今後の改善・向上方策	
率直に言えば、この活動は必要な事柄であるが、本研究科として現時点での優先性は高くないと考える。しかし、持続的、継続的に研究科の活動・業務内容を点検するシステムを構築するべく検討していく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
*各項に留意点レベルを記入
【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.	ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2024年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

生命健康科学研究科

基準（シートNo.）	根拠資料 No.	根拠資料の名称	提出 区分
2. 内部質保証 (NF2)	2-1	主任会議事録	○
	2-2	授業アンケート	△
	2-3	BP運営委員会議事録	○
4. 教育・学習(4a) (NF4a・EF4)	4a-1	研究科・専攻DP, CP	○
	4a-2	ルーブリック評価表	△
	4a-3	シラバス	△
	4a-4	学生便覧	△
4. 教育・学習(4b) (NF4b)	4b-1	研究科委員会議事録	○
5. 学生の受け入れ (NF5・EF5)	5-1	研究科・専攻AP	○
	5-2	個別審査申合せ事項	△
6. 教員・教員組織 (NF6)	6-1	生命健康科学研究所運営委員会議事録	○
	6-2	教育職員定員・現員表	○
	6-3	FD活動評価点検報告書	○
	6-4	サロンドミネルバのチラシ	○
	6-5	教員活動重点目標・自己評価シート	△
7. 学生支援 (NF7・EF7)	7-1	指導教授名簿	△
8. 教育研究等環境 (NF8)	8-1	中部大学における人を対象とする研究に関する倫理指針	○
	8-2	中部大学倫理審査委員会規程	○
	8-3	中部大学倫理審査委員会迅速審査委員会細則	○
	8-4	研究ガイドブック（冊子）	△
	8-5	APRIN eラーニングプログラム操作手順書（PDF）	△
	8-6	文科省/厚労省各専門職学校養成所指定規則	△
	8-7	2022・2023年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画案について	○
9. 社会連携・社会貢献 (NF9)	9-1	各教員の持つ社会貢献に関する事業・研究の資料	△
11. 大学独自の評価項目 (NF11)	11-1	各委員会議事録	△
	11-2	各専攻会議議事録	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管